

会員リレーコーナー

どうも
しばらくです



今回登場された会員からバトンを渡された会員の皆さんは次回の掲載になりますのでよろしくお願いいたします。

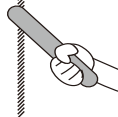
東北電友会会報 編集委員会

※氏名の後の（ ）は退職年を示す。



五ッ橋クラブ
松田 忠 (平7)

からのバトン



五ッ橋クラブ 千葉 恵逸 さんへ

バトンを頂いた松本善英さんには、釣りのすばらしさを教えてもらいました。技術や知識が全く無い私を釣り仲間に誘って頂き、根掛かりの都度仕掛けを処理してもらったり、たまに魚が喰い付いた

ら、ハリを呑み込ませてしまったり、本当にご迷惑をお掛けしました。

また、松本さんとは、産学官が連携して設立したインテリジェントコスモス研究機構（ICR）のR&Dの一つである「小電力高速研究所」の設立準備スタッフとして、2人で出向しました。設立の陳情や出資依頼のために、何回か上京したことも思い出しました。

今、私は86歳になりました。幸いにも健康に恵まれ、楽しい日々を送っていますが、元気でいられるのは、多くの方々と接しているからだと確信しています。特に、長年サークルや愛好会に参加し、楽しんでいるからだと思います。特に、私のお気に入りをご紹介します。

一つ目は、地域の方々との「グランドゴルフ」です。一般的なコースは、校庭などの雑草の少ない場所ですが、私達がプレーしているのは、全面が雑草のコースなのです。季節や天候の違いで、打ったボールは勝手な方向にコロコロ行きます。この意外性が面白くて、「グラスゴルフ」などと名付けて楽しんでいます。

二つ目は、「唄う会」への参加です。特徴的なのは、いわゆるカラオケではなくて、市販のCDに合わせて、全員で合唱するのです。凄いの20曲も連続して歌うことです。1時間半ほど歌い続けます。しかも、声を張り上げてです。曲目は毎回異なり、童謡や演歌、ポップスなどが選曲されており、毎回どんな曲が歌えるのかがとても楽しみです。今年に入ってから森進一の「昭和・平成・令和に生きる」をみんなで覚えようと、21曲目にセットして歌っています。

三つ目は、電友会サークルの「五ッ橋フォトサークル（IPC）」への参加です。毎月1回、各自が撮影した作品を持ち寄って寸評し

てもらいます。「この部分が素晴らしい」とか「構図をもうひと工夫」などアドバイスをもらい、次回に向けてより素敵な写真撮影の意欲をもらっています。また、撮影旅行に出かけ、すばらしい撮影ポイントに感動したり、地元の美味しい料理（私はお酒も...）を味わうことも出来て大満足しています。

この他にも、色々な方々と接する場があり、これが健康維持の源だと信じています。

間もなく迎える「米寿」をクリアし、「卒寿」を目指したいと思っています。

私からのバトンは、IPCの事務局長として、作品展示会の企画や撮影会のコース設定などでお世話になっております、千葉恵逸さんをお願いします。

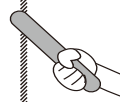




五ッ橋クラブ
高橋 正典(平24)

からのバトン

水沢地区電友の会 千田 昌則さんへ



バトンを頂いた梶谷さんとは高校からの長い付き合いで、東日本大震災時には彼が故障修理、私は設備復旧と共に支えあった戦友でもあります。

私は昭和50年長町分局に入社し線路屋として、計画、建設、保守、渉外、相接、災対などを経験し、宮城、東京、秋田、青森、岩手と転勤しました。

中에서도思い出深いのは、各地の「祭り」への参加です。初めて課長として赴任した秋田では、会社人生の礎となる貴重な経験を積み鍛えられました。そんな中、先輩方が誘ってくれた、竿灯、梵天、六郷の竹打ち、花輪囃子、大曲の花火などの祭りは、多忙な中で、大きな心の癒しとなりました。

宮城では裸参りに挑み、願いが

叶うとされる3度目の参加が叶わなかったのが心残り。

青森では、ねぶたの跳人だけでなく、化人として白波三人衆やマイケル・ジャクソンに化けました。弘前ねぶたでは提灯を掲げ、「ヤーヤドー！」と叫び、五所川原では、先輩が行きつけの居酒屋の店先から立佞武多を見上げ、その迫力を堪能しました。

岩手では、水沢ざつつあかまつりで、5分で覚えられるからと誘われ、時間を忘れ、汗だくになり踊りました。

こうして、祭りを通じて多くの人とつながることができ、それが仕事人生に大きな彩りを添えてくれました。過去の職場や祭りの記憶とともに、太鼓や笛、鐘の音が心の中に響いてきます。そして、あの時、一緒に祭りを楽しんだ先輩や同僚たちの笑顔が浮かびます。皆さん、元気であるだろうか？できることなら、もう一度訪ねてみたい…。

現在は、通建会社で「安全の見守り」をしています。IOTとは便利なもので、在宅でリアルタイ

ムに現地とやり取りができるし、この文章も生成AIで作成しています。

気がつけば「じいさん」と呼ばれる身になりました。これからの人生をどう過ごすか？新たな出会いや祭りを求めて、移住するのも悪くないと考えている、今日この頃です。

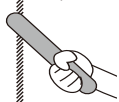
バトンは、ざつつあかまつりで一緒に踊った同期、水沢電友会の千田昌則さんをお願いします。「千田ちゃん、よろしく！」



大崎クラブ
村上 智世子(平10)

からのバトン

大崎クラブ
岩渕 好子さんへ



細谷千加子さんからバトンを受け、当時の職場の様子が、懐かしく思い出されました。

昭和37年に電電公社に入社以来退職まで、古川支店情報営業に在籍し、子供を育てる事が出来たの

は、恵まれた職場環境、知人の助けがあったからこそだと、いつも思いながら、そして感謝をしながら生活して来ました。

古川的情宮が仙台に集約となった、平成10年3月末で退職しました。

退職後、先輩から誘われた、10数名による月1回の会合では、会員相互間でスキルを分かち合い、高め合いながら活動しました。また、共に退職した友人と2人で、茶道の先生のお宅へ通い、その当時70代だった先生の凛とした立ち居振る舞い・所作に強く心を打たれ、刺激を受けました。茶道の奥深さを感じながら、週に1回、まじめにお稽古を続けられた事が、退職後の人生の充実に繋がったのではないかと思います。

そのほか、気の合う仲間との旅行、水泳、ウォーキング、水彩画、手芸等々…、大いに楽しい心豊かな時を過ごしました。家族には、「仕事している時より忙しいね」と言われたほどで、家族に感謝です。

震災やコロナ禍で楽しい活動もストップせざるを得ず、気が付け

ば77歳になり、変形性膝関節症の手術を受け、病も患いました。現在、正座は出来ないものの膝の痛みもなく、他も今のところ異常はなく、孫の食事作りや送迎と、普通の日常が送れています。また、細谷さんのご主人のさくらんぼ農園に、年1回お世話になり、楽しんでます。「人生100年時代」と言われている現在、まず一日一日を大切に元気に過ごせる事、「日は好日」が私の座右の銘です。

さて、次のバトンは、入社以来大変お世話になり、現在もなんでも語りあえる、電友会大崎クラブの岩渕好子さんに受けていただきました。



福島地区電友会
菊田 秀雄(平5)

からのバトン

福島地区電友会 羽田 英夫さんへ

私は、いわき局在勤中からその後の福島地区電友会と、お世話に

なった伊藤邦子さんから、突然バトンを渡されました。

いわき局に昭和62年3月から6年程在勤し、伊藤邦子課長には何かと面倒をみて頂き、お世話になりました。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

昭和37年4月に、電電公社福島電報電話局に採用され、電報の受付通信業務に7年間携わりました。その後、電電公社から民間へ移行後のNTTへと勤めて参りましたが、在職中、特に印象深かった事を記したいと思います。

昭和48年4月のまだ電電公社時代に、専門部(共通班)の研修生として、東京電気通信学園に入学。東海地方から北海道地方までの7エリアから42名(内女性1名)の研修生が集まりました。6カ月の期間でしたが、研修内容が盛り沢山で、富士山麓での合宿に始まり、NHKのグラウンドにて体育大会、鎌倉の建長寺での座禅、陣馬山への登山、10日間の夏休み、5泊6日の四国旅行、他企業研修、現場実習、テーブルマナーの講習。

また、授業には英会話もあり、

美人の外人講師から厳しい講義を受けました。その他授業以外では、体育系と文科系のクラブがあり、ソフトボール、バスケットボール、テニス、バレーボール等。

文科系では、書道、華道、茶道等。各自が可能な範囲で、好きなクラブに参加し、楽しみながら学びました。また、著名な方々の特別講話もあり、大変貴重なお話を拝聴できました。

卒業後は、幹事持ち回りで、ほぼ毎年「クラス会」を開き、旧交を温めており、これからも続けていければと思っています。

また、退職後は電友会と退職者の会の幹事を引き受け、長年にわたり退職者の皆さんのお役に立てた事に対して、自分を少し褒めてあげたいと思っています。

次のバトンは、高校の後輩であり、福島地区電友会ではいろいろと行動を共にしてきた、羽田英夫さんにタッチしますので宜しくお願ひ致します。



白河地区電友会
山田 道夫(平28)

からのバトン

白河地区電友会 小沢 玲子さんへ

楽しかった会社生活の中で唯一苦しかった田島局で、お世話になりました黒川幸正さんから鈴木敏和さんへと、そして私にバトンが回って来ました。お二人には改めて感謝申し上げます。

昭和45年に、白河電報電話局の線路宅内課に採用されました。高校の3年間、白河電報電話局でアルバイトをしていましたので、すぐに職場に溶け込むことができました。

3年後、東北電気通信工事事務所に行きました。ここは、中堅技術者の育成機関で、東北6県から若者が集まり、ほぼ共同生活に近い体制で、東北6県を工事しながら技術を磨いて行く所でした。自由、自分達の裁量で仕事が出来ましたので、一番楽しかった職場

です。北から、むつ市、能代市、盛岡市、気仙沼市、天童市、郡山市、三春町と回り、約7年の在席期間中、観光も満喫することが出来ました。

次に福島県の建設課に行き、そして田島局です。東北電気通信工事事務所出身者を希望とのこと、工事の腕を買われたらと思っていました。市外係なのに、共通事務や固定資産や土木業務などの担当でもありました。選ばれてきたというプレッシャー、経験のない先の読めない業務での不安、さらに、毎月の月次会議での局長への説明がストレスとなり、胃潰瘍になりました。幸い軽いものでしたが、胃は相当痛かったです。

そんな中、機械課だった鈴木敏和さんグループには、親身になって相談に乗っていただきました。また、夜の部も誘っていただき、ストレス解消となりました。黒川幸正さんには、私がテンパっている時に、家族と仲良くしていただき、助かりました。田島局で得た知識で、その後はどこに行っても安泰でした。

会社生活の後半は、所外設備のデータベースを担当していました。特に固定資産のデータの精査と整備をしていましたが、各データベースを駆使してデータをきれいにしても、人が介入するとデータが汚れてしまう虚しさ、全てを胸に秘め、平成28年12月に退社しました。

妻とゆっくり旅行でもしたいなと、退職前から思っていました。妻の仕事や猫を飼ったことにより、実現できないでいます。近場の日帰りで我慢しています。退社して8年目になる今、猫5匹、いや、4匹と1匹の猫と暮らしています。1匹は猫エイズに感染しているため、4匹のグループに入れることが出来ないで、別々に飼っています。毎日、猫に癒されて、ゆったりと過ごしています。

次のバトンは、共に白河地区電友会で活動している、行動派の小沢玲子さんに渡します。よろしくお願ひします。



弘前地区電友会

三上 定勝(平22)

からのバトン

弘前地区電友会 高谷 光夫さんへ

八戸勤務時代にご一緒しておりました、斎藤和雄さんからバトンの指名を頂きました。

斎藤和雄さんには、八戸勤務の際に大変お世話になりました。思いつきとしましては、毎月29日には『肉の日』と決めて、楽しく飲んだことを今でも覚えております。

私は、昭和40年10月に大鰐電報電話局・施設課に配属され、A形自動改式に向け採用されました。翌41年8月12日には、旧大鰐局が水害により孤立したため、自分達もロープを伝って避難しました。

8月14日には自動改式を迎え、日々、113業務は24時間態勢でお客様対応をしました。

昭和44年には弘前局に移行し、施設畑一本の勤務でした。

青森局機械工事課では、自動改

式に向けて県内全ての工事に携わり、仲間を信じて業務にあたったり、先輩方の厳しくも的確な指導のもと、事故やトラブルもなくサービスを提供して参りました。

いろいろな業務も経験させて頂きました。災害担当時代の平成12年3月に、北海道有珠山噴火に備えて、通信確保業務として緊急支援があり、責任者として緊急車両(TZ-403)で派遣出勤し、緊急通信線を確保したことは非常に大きな経験でした(有珠山737M・3月31日13時07分噴火)。移動の際は、青森からフェリーで苦小牧へ上陸しましたが、現地では火山性地震が頻発し、常に体に揺れを感じた記憶を鮮明に覚えております。

平成22年に退職致しましたが、幸い監視業務の紹介を頂き、毎年2〜3回の研修を受けながら、青森橋本ビル・弘前本町ビルの監視員業務をしてまいりました。この業務では、日々仲間の顔を見ることが出来たおかげで、楽しく仕事ができ、大変感謝しております。

私生活では、同僚達よりパーク

ゴルフを勧められ、現在でも続けております。スコアの方は上達しておりませんが、年4回の定例会及び、宮城支部大崎クラブとの交流会もあり、スコアを気にせず楽しんでおります。

平成24年11月に半年の研修期間を経て、弘前市防災マイスターの認定を得ました。(弘前市防災マイスター連絡会登録)そして平成25年には、防災士の資格を取得して地域の防災に寄与しております。

また、令和元年から2期4年間、弘前地区電友会の会長を務めました。コロナ禍もあり、十分な活動を行うことが出来ませんでした。会員の皆様には非常に申し訳なく思っております。まずは、会員をはじめ、そのご家族の皆様の健康を第一に考えた4年間でありました。

次のバトンは、電信電話記念日で久しぶりにお会いした、高谷光夫さんへお渡しします。高谷さん、現役時代には、いろいろとアドバイスを頂きまして、大変有難うございました。宜しくお願い致します。



霞城クラブ
武田 喜晴(平 27)

からのバトン

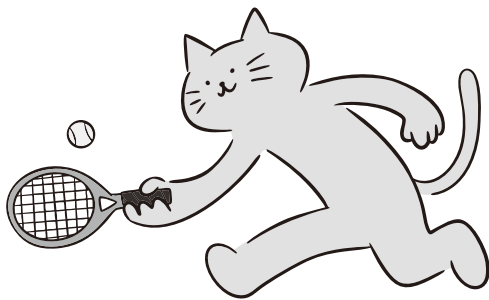
村山クラブ
結城 栄一さんへ

《テニスでストレス解消!!》

私は現役で40歳の時に、生涯出来るスポーツとして、硬式テニスを始めました。丁度息子が高校に入学し、テニス部に入部したこともあり、それが後押しになった面もあります。それまでテニスはやったこともなく、まったくの素人なので、ボールが思うようにラケットに当たらず、その難しさを痛感する日々でした。

毎朝6時からやっている「モーニングテニスクラブ」を紹介され、入部してから少しずつ打てるようになり、その面白さにのめり込んでしまいました。一緒に汗を流すクラブの仲間は、様々な仕事に携わっており、その業種の裏話や人間模様など、自身の職場では聞けないことや体験できないことなど、

貴重な話を耳にすることができました。今でも夏場は週に4日～5日、冬場は屋内コートで3日は練習に励み、その合い間には、仲間と人生のコミュニケーションを取り、ストレス解消を図っています。また、様々な試合で、多くのプレイヤーと交流しながら練習に励んだ結果、毎年行なわれる全国大会「ねんりんピック」に、山形県代表として2回出場することができました。これからも、次の大会に向け、健康に留意しながら、仲間という汗を流したいと思っております。



新入会員募集しています

電友会では、常時、新会員の受付をしています。皆様のご友人で入会されていない方がおいでになりましたら、ぜひ、入会を勧めていただきますようお願いいたします。

【お問合せ・連絡先】

電友会東北地方本部

▶ 電話 (022) 212-1443 ▶ FAX (022) 212-1444

▶ E-mail : keyaki@cocoa.ocn.ne.jp

会友コーナー

文芸

俳句

短歌

川柳

詩

随想

文芸



短歌

仙南OB会

大庭美智子

いにしえの 栄華を誇る パルテノン
神殿の柱 見上ぐる二人

字あまりや 字数足りずと 悩みつ

何をか 合わせ 三十一文字よ

冬ざれやひまもて余し スマホのベルに
喜べば セールのコマーシャル

俳句

仙南OB会

大庭美智子

鮫鯨や今も記憶にとも酢和へ
冬ざれや陽の照る刻に散歩とや
ぬくぬくし伯母の孫負ひねんねこよ

福島地区電友会

関戸 武

日向水風のみどりを宿しけり
山壁を横目に進む登山道
会津路のせせらぎの音草紅葉

川柳

仙南OB会

大庭美智子

足元の雪間に見ゆる青き葉よ
コロナ禍や化粧忘れていくとせか
レク旅行九十九里浜息子と歩く

福島地区電友会

高橋 敬一

八十路坂もすこし上を見てみるか
CMで流れるサプリ欲しくなる
あの頃はトラレプよりもかるた取り

弘前地区電友会

倉谷 景子

西日濃き路地に昭和の赤電話
晩年の風受く自由大夏野
二人居に届く西瓜の座りよき

弘前地区電友会

ゆきやなぎ

四拍子良い子悪い子普通の子
青春のエイトビートは乗りそこね
三拍子入れて百までしなやかに

秋田支部

柏谷 武

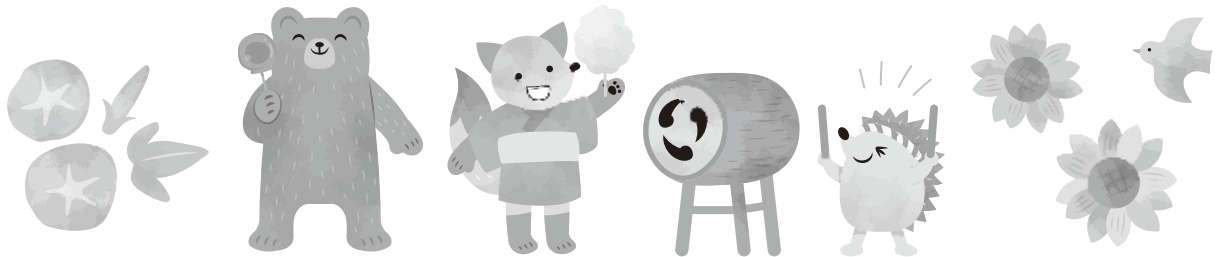
故郷の祭り太鼓が呼んでいる
アポが先電話で足りる事もある
青田風米騒動を吹っ飛ばせ

五ッ橋クラブ

山ボーイ

満月も耳をふさぐか虫の声
眠らずに何をささやく杉木立
検査値にホッと一息梅香嗅ぐ

◎投稿は紙面の都合上、一人3句までとさせていただきます。多数投稿されている場合は勝手ながら編集担当で選定いたします。



仙台紙工の「プラス思考」で、あなたの「思い」をもっと豊かに

1 Creative

- デザイン
- コピーライティング
- CM等の企画・制作
- 商品開発ほか

2 Digital Content

- WEBサイト
- インターネット広告
- AR
- 動画

3 Sales Promotion

- ポスター・チラシ・DM
- パンフレット・カタログ
- 折込・ポスティング
- イベント企画・運営ほか

4 Marketing

- 市場調査
- 分析

産 直 ス ト ア
メッケモノミヤギ



魅力溢れる、宮城の
「メッケモノ」を紹介！
お土産や贈り物にも、
是非、ご利用ください。



オリジナル
サイト



Yahoo!
ショッピング



メッケモノミヤギ

検索



クリエイティブ デジタルコンテンツ セールスプロモーション マーケティング

株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14

Office TEL(022)231-2245(代) FAX(022)231-2247

Design TEL(022)231-2251 FAX(022)231-2252

<https://www.sendai-shiko.jp>

<http://fb.com/sendaishiko>

info@sendai-shiko.jp

随想



私しの77年



電友あさか会

植田 富好

この度、77歳の喜寿を迎えるに当たり、電友あさか会様より御祝いを賜り、感謝申し上げます。77年も生きておりますと、悲喜こもごもであります。

昭和45年、電電東京採用となり、丸の内電話局を振り出しに、6ヶ所に勤務し、休日には、待っていましたとばかりに、都内や近郊を出歩き、思い出をいっぱい作りました。

その後訳あって、16年振りに故郷福島へ帰って来ました。田島、会津若松、郡山、福島と渡り歩き、田島では溪流釣りや山菜きのこ採り、スキーも覚えました。仕事は初めての機械職で、いろいろ苦勞もありましたが、その都度上司や同僚から教えを請い、なんとか乗りきって来ました。

会津若松勤務時代には、休日に家族そろつ

て山形へ、さくらんぼ狩りと山寺参拝に出掛けましたが、山形県南陽市で交通事故に遭い、家族5人が、2週間から6ヶ月間も入院する羽目となった、苦い思い出もあります。

退職後は、11年前に直腸、3年前に上行結腸に、いずれも癌が見つかり、摘出手術を受けました。幸い発見が早く、生き長らえていますが、早世した妻、幼い孫のため、少しでも長生きしたいと願っている所であります。

3匹の茶トラ



電友あさか会

黒川 幸正

どちらかという大派と思っていました。今ではすっかり猫派になっています。切っ掛けは、娘夫婦が雨の日に、本宮のラーメン店の外で、怪我をしている様で元氣のない、顔面泥だらけで、ピチャピチャと雨水を飲んでる猫を拾ってきました。

夕方、元氣がないので病院に連れて行ったら、「3日が峠」と言われましたが、日に日に傷も治り、元氣になりました。トイレもすぐに慣れて、朝夕は首輪にリードを付けて散歩するようになるなど、賢い子でした。名

前を「サクラ」と付けました。

性格は敏捷で、外で紐に繋がったまま、カマキリを捕まえたり、スズメを獲ったりした事がありました。しかし、元氣はいいが、怪我で病院通いも多く、「サクラ、お医者さんに行くからケージに入ってネ」と言ったら、タッタッタと走って自分で入ったこともありましたが。

引戸は開けるし、両開きの扉も、取っ手に乗ってどちら側からも開けることが出来ました。留守番をさせていた時、玄関に迎えにきて、鎖錠へ飛び上がった閉められてしまい、ガラスを割って入った事がありました。

また、風の強い日に、2階のランダの手摺りから地面に落下し、顔には土をつけて、どうしたのかなとキョトンとした様子でしたが、1時間位してやっと元氣になりました。

4歳半になった頃、福島から「モモちゃん」が来ました。「モモ」は、戸の開け方や散歩等のほか、茶ダンスの引出しも開けたり、丸めておいた靴下でボール遊びが上手でした。2011年の大地震の時、「モモ」は腰を抜かしてしまいました。

3番目は、郡山生まれで「マリちゃん」と言います。3匹とも、朝夕の散歩は楽しみに待っている様子でした。

6月のある日、どこから飛んで来たのか、キウイの木に止まっているセキセイインコを、「マリ」が見つけて大騒ぎとなり、30年続いた、猫との朝夕の散歩を止めてしまい、淋しい時もあります。今ではインコの「ピーちゃん」が家族の一員になっております。

喜寿を迎えて



電友あさか会

千葉 好博

この度は、電友あさか会様より、喜寿のお祝いを頂き、有難うございました。昭和42年、電電公社（福島電気通信部）に採用され、主に施設部門の仕事に従事し、平成21年、無事退職する事ができました。その後、契約社員としてお世話になり、東日本大震災の復興関連の業務を担当し、平成26年に完全退職となりました。

在職中には、昭和60年の民営化をはじめ、組織の改編等、いろいろありましたが、上司、同僚からご指導ご協力を頂き、勤続できました。あらためて感謝申し上げます。

退職後は、孫の希望もあり「道の駅」をめぐっています。妻と孫と私のワンチームで、

福島県内の道の駅を巡る事からスタートし、孫の学校休日にドライブし、福島、宮城、山形については完結！東北の道の駅を全て巡る事を目標に、もう少し頑張りたいと思っています。

喜寿を迎えても「かきくけこ」の心掛け



電友あさか会

近内 久子

日々心がけていることは、「明るく、元気に、何事も一生懸命に続けること」「感謝の心と希望を持って、くよくよせずに、健康で行動すること」「かきくけこ」の心です。

平成20年3月に退職してから、母の介護と、幼少から続けてきた「日本舞踊」を楽しんできました。

母は、59歳で脳梗塞で倒れ、半身不随となりました。本人のがんばりとリハビリで、左手、左足にはマヒが残りましたが、利く右手で、趣味の手芸や、父との旅行を楽しんでいました。80歳を過ぎた頃から歩けなくなり、車椅子を使うようになりました。介護をする大変さは、それぞれに違いはありますが、デイサービスやショートステイを利用し、母が

毎日を楽しく過ごせるようにと心がけてきました。

母は、令和3年5月、95歳で亡くなりました。「喜寿」「傘寿」「米寿」「卒寿」と長寿を祝い、家族で旅行に出かけていました。家に帰ってきての母のひと言は、「やっぱり家が一番良いね」。わたしは喜んで良いのやら？

そんな母を想いながら、「還暦」は神様からいただくおまけの人生、新しく生まれかわる、新しい人生の始まりと感じます。「喜寿」は、さらにおまけの人生です。まだまだ、人生へのチャレンジの途中です。自分の努力と、まわりの人への感謝を心がけ、「かきくけこ」そして生かされている自分を大切に、健康で明るく元気に、笑顔で毎日をごしてまいります。

随想



電友あさか会

渡辺 守康

福島電報電話局入社後、山との出会いは、福島電電山岳会に入会し、諸先輩方に登山の基礎から教えていただき、山に嵌まってしまいました。5月連休の、飯豊連峰・石転び沢



吾妻連峰の雄大な自然に包まれて
谷地平の集いに笑顔咲く

での春合宿では、ベースキャンプを設営し、雪溪での春スキーや残雪登山。6月の吾妻連峰の谷地平の集いでは、河原の流木を拾いキャンプファイアー。今では、「国立公園で火気厳禁」、一晩中酒を酌み交わした楽しい思い出が、とても懐かしいです。また、毎年12月年末の、安達太良くろがね小屋の脇でのテント



年末恒例だった安達太良くろがねテント合宿

合宿では、良くラジオで紅白歌合戦を聞いて、年越しを迎えました。

福島のを離れて山が遠くなりましたが、現在福島電電山岳会で毎年1月の新年会（穴温泉11名参加）と6月のキャンプ（今年はフォレストパークあだたら）を開催しております。楽しみにしております。

宇野^{うの}気のひととき



花巻電友会

藤原 節子

令和6年11月1日～4日、全日本卓球選手権大会マスターズの部が、4月にオープンした「石川県かほく市総合体育館」で開催された。当初は、金沢市で開催予定だったが、1月の能登半島地震の影響で、金沢駅から七尾線で30分の宇野^{うの}気に変更となった。

宿の近くにコンビニもなく、宿の主人に食事処をたずね、初対面の京都のSさん、86歳の男性とご一緒した。

紹介された寿司屋のカウンターに座り、飲みながら談笑が続いた。カウンター8席は満席で、まるでワンテーブルかの様に飲みニュケーションが展開された。

宿の受付で、私達を見かけた横浜在住の47歳の男性が、「てっきり夫婦だと思っていた」といい、大笑い!!彼は、年に1度の、当地への出張中とのこと。

Sさんは、10年前に花巻で開催されたマスターズ大会にも参加、「宿泊した花巻温泉がとっても良かった!!」との嬉しいお言葉を!まるで、私までほめられた様な、そんな気持ちにさえなった。

この大会でベスト8になると、「日本卓球ランキング証」をもらえるが、ベスト8になったSさんのランク証の写真も拝見した。お仕事は、競馬で優勝した馬の背に飾る「優勝レイ」をミシン刺繍で作成していたとのこと。

また、娘さんは、ミセスジャパンで優勝したとか。どうやら、日本代表になられたようだ。日本の「雅」を模したドレス姿には、驚くばかり。「ランキング証の賞状」、「レイを付けた馬」「長身で美しい娘さん」の画像も、すべて私のスマホに納めた。

その日、ワールドシリーズで、大谷選手が所属しているドジャースが優勝し、その話でもちきりだった。なんと、Sさんからは、佐々木麟太郎さんの話題も出た。「彼は、大谷選手の母校、花巻東高等学校野球部の監督さんの息子さんですよ」とお伝えした。

お店のテレビでは、「日本シリーズ、ソフトバンク対横浜ベイスターズの第5戦」が放映されていた。「レギュラーシーズン3位から立ち上ったのだから、ぜひ優勝させたいね!」との話題に、横浜在住の47歳の彼はついてこれなかった。コンピュータ関連のお仕事で、どうやらネットニュースは、興味のある分野しか見ないようだ。年寄り2人は、「新聞を見ろよ」と小声で話した。

出張先の上司らしい人が、横浜の彼に、「イカきらいか?」「好きです」酒のつまみで残っている「イカサシ」をみて言ったらしい。好きなものを先に食べるか、後に取っておくか、そこで話がまた盛り上がった。

物騒な世の中なのに、卓球をやっているというだけで、心の扉を開け、楽しく談笑できたこと、さらにリーズナブルでおいしいお魚を味わえたこと。忘れられない、とっても温かい、試合前のひとときでした。



消えない雪はない



弘前地区電友会 加藤 博次

2025年、弘前は豪雪で明けた。

雨ニモ負ケズ。雪ニモ負ケズ。と、日々の雪トロケ(雪片付け)に勤しんだが、傘寿を迎えた拙者には、チョーキビシー現実。足腰の鍛錬などと洒落てる場合じゃない。

ただ一ついいのは、雪のおかげでおとなりさんやおむかいさんと、「今日も降ったね」と、おはよう代わりの会話をし、近況の雑談ができることか!これも安否確認だ。

長年やってきた朝野球の監督もワケモノ(若者)に譲り、身体を動かす機会もめっきり減った。愛犬を見送ってから10年が過ぎ、散歩にはワンコがいればな一と、一瞬思ったりしたが、ワンコを残して自分が先に逝くことを考えれば、できない相談だ。せいぜい一人で5000歩くらいはと、散歩する。三日坊主にならないよう、小さな目標を立てている。

岩木山が、日々違う顔を見せてくれる。消えない雪はない。あんなにあった雪は、どこに行った?やっと春を感じる日々が訪れた。まもなく桜の季節。元気で観桜できること

に感謝です。

ありがとう!

スマホのアプリ作りと売上アップへの悩み



弘前地区電友会 松本 健一

あと2ヶ月で後期高齢者になろうかという時に、スマホのアプリを作ろうと思い立ちました。スケジュール管理のためのカレンダーアプリです。

きっかけは、それまで使っていたカレンダーアプリに、今一つ使いにくさを感じたことでした。どうせ作るのだったらプレイストアで販売してみよう、その売上を「こども食堂」に寄付しようと考えました。

作成に取り掛かってから、GoogleのAndroid開発の推奨言語の変更や、コロナに感染するなど、色々ありましたが、約5ヶ月でどうにか完成することができました。プレイストアへのアップには、開発者アカウントが必要なので、Googleに25ドルを支払い、アカウントを登録し、銀行で寄付用の専用口座の開設をお願いし、Googleの審査を通過して無事にアップできました。

(iPhone版は開発者アカウントが高額であることや、開発ツールの関係で断念しました)

ところが、いざアップしてみると、数え切れないほどのアプリの中から選ばれるのは容易ではありません。自身でプレイストア内を検索してみても、簡単には表示されませんでした。

2023年12月時点でのアプリ売上は4230円でした。アプリの販売価格は200円で、Googleの手数料15パーセントを差し引いた170円が収入となります。アップ当初の手数料は30パーセントでしたが、Googleへの申請で15パーセントになりました。

少額でも「子ども食堂」に寄付をするという目的を果たしたいと思い、売上4000円

に自身の6000円を加えた1万円を持って市役所に行きました。市内の「子ども食堂」10か所に、各方面から寄付された食材を卸している団体を紹介され、そちらを訪問し寄付できました。

今までのダウンロード数は35件です。せめて、もう1、2度は寄付したいのですが、知名度がありません。知名度を上げたいと思っていたときに届いたのが、電友会会報でした。高齢になり、病院の予約日なども忘れがちになります。音声入力にも対応していますので、ご協力いただければ幸いです。

《アプリの詳細や売上と寄付の状況》

<https://jiichan.com/etCetera/etCetera.php?category=computer&no=08>

＜アプリ名：My Calendar＞

自作のアプリで、売上は全額「子ども食堂」に寄付しております。どうか電友会の皆様のお力添えをお願いいたします。



Google アプリストアへのQR



アプリのアイコン



アプリのスナップショット

無事喜寿を迎え、
今までを振り返ってみました



秋田支部 佐藤 貢

この度は、喜寿にあたり、早朝より自宅までお祝いを届けて頂きまして、心より感謝申し上げます。

今までの人生を振り返ってみますと、本当に良く今まで生きて来たものだ、と思うと共に、色々な経験を思い出します。

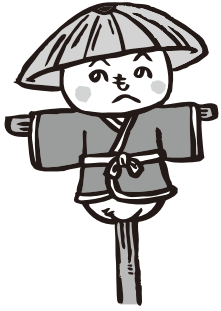
まずは、昭和58年5月26日12時に発生しました、日本海中部地震です。当時の私は、秋田通信部で機械係長として、全県の係長会議を予定して居りまして、お昼で職場に戻ると同時に地震が発生し、出席していた全県の各係長に直ぐに指示を出し、それぞれの職場に戻ってもらい、いろいろな対応をお願いした事を思い出します。

次に、初めての海外旅行（グアムへ町内会有志で）です。昭和63年1月7日に「昭和天皇が崩御」された翌日が私の誕生日なので、グアム島では町内会有志に誕生祝をして頂きましたが、時期が時期だけに、羽田・グアム両空港の警備が物ものしかった事を今でも思い出します。

次は、平成7年5月26日の「地下鉄サリン事件」です。当時の私は、「築地ニチレイ勝どきビル」のNTT長距離事業本部（牧野詔一 本部長「元東北通信局施設部長」）への長期出張が終わり、秋田に帰って丁度1週間後の事件でした。会社へは、何時も地下鉄日比谷線を利用して居りましたので、もし遭遇していたらと思うと、人生いつ何が有るかわからない物だと思ふ次第です。

次に、平成23年3月11日の「東日本大震災」であり、当時の私は、ME秋田支店の「地デジ」の関連作業をお手伝いしていた時の大惨事でした。中通ビルから外旭川の妹の家まで歩いて帰ったこと等、様々なことを、昨日の様に思い出します。

最後に、今後は令和元年に地元で立ち上げた、農業法人「まごころ片田」（作付け面積17町歩・168,595.8㎡）の代表者として、赤字を出さずに、後輩に無事に引継げるように頑張りたいと思っております。今後とも皆様、宜しくお願い申し上げます。



喜寿を迎えて：

秋田支部

佐藤 芳勝

私には孫が3人おりますが、一番年下の孫がこの4月職に就き、社会へ飛び立ったのを機に、自分が入社した当時のことを、思い出すがままに書いてみました。

昭和41年4月、秋田電話局市外線路課への採用でしたが、職場の構成は、課長とデスクの係長が2人、50代の現場係長が1人、社員は40代から30、20、10代後半まで、それぞれ2人ずつという、年齢的に極めてバランスのとれた構成でした。

最初は慣れなく、きついこともありましたが、今日の^{こんにち}のような「パワハラとか〇〇ハラ」とは全く無関係な、明るく前向きに仕事のできる職場でした。そんな中、初任者訓練で3ヶ月間、鈴鹿学園で過ごし、九州弁などの方々と交流できたことが思い出されます。

一方生活面では、秋田市旭南にあった独身寮へ、入社と同時に入寮出来ました。寮は、2人用の6畳間が7つ、談話室が1つ、寮母さんの部屋を加え9部屋と小規模でしたが、マージャン等を通して入寮者どうしの交流が盛んでした。特に寮母さんは、誰にでも温か

く接してくれる、人気のおばさんでした。昨今と違い、コンビニやスーパーのない時代でしたが、朝夕の食事の心配がなく、かつ勤務先や川反の焼き鳥屋に歩いて10分程の好位置の中で生活させてもらい快適でした。感謝・感謝です。

さて、孫たちはどうなっていくのか心配です。

これまで、楽しかった思い出



秋田支部

齊藤 和雄

令和7年5月、77歳の喜寿となり、誕生日当日に、お祝いの記念品を大川事務局長自ら自宅まで届けて頂き、誠にありがとうございました。

昭和23年生まれの団塊世代の私も喜寿を迎えて、これまでを振り返ると、楽しかったことだけが走馬灯のように思い出されます。

社会人のスタートは、昭和42年に高校を卒業後、横浜の電話局に採用されました。当時、横浜管内の採用も地方出身者が多く、独身寮に入ることが出来ず、民間のアパートを借り上げた6畳一間での3人（私、長野県、新潟

県出身)の自炊生活が、今でも懐かしく思い出されます。

さらに、採用当時の同期生(群馬県、神奈川県出身者)2人とは、研修(当時は訓練と言っていた)や会議も一緒になる機会が多くなり、その後意気投合し、60年も続く大親友となりました。

同期生も喜寿を迎え、私同様に足・腰などが弱くなってきているため、長距離の移動が伴う再会は、年々大変になってきていました。

こうした中で、今後、共に「行ったり、来たり」は厳しくなることから、『今生の別れ』を昨年9月に計画し、実施しました。再会当日は、秋田市内に一泊し、翌日は、乳頭温泉、蟹場温泉に一泊し、旧交を深めたところであります。しかし、今回の再会によって、足・腰は弱くなっていることをお互いに確認し合い、今後もまた、「是非横浜での再会を」と固く約束して、別れました。

同期生2人と出会えたことは、かけがえない財産であり、今後も機会を捉え、体力と相談しながら旧交を温めたいと思うこの頃です。



喜寿を迎えて

「背伸びせず思いきり生きたい」



秋田支部 田中 由紀子

何ともピンとこない私ですが、子供達、家族にお祝いをするからと中国料理店へ呼ばれました。記念品として渡されたのは、77年前の朝日新聞と、20歳を迎えた年の新聞記事でした。ルーペ付きだったことから、思わず笑ってしまいました。

『これから元気でいてね…』とはありましたが、果たしてどのくらい、現役でいられるかな?と考えてしまいました。

リタイヤした時は、地元の人達との交流の少ない生活だったなあと、とにかく興味のありそうなものには、積極的に参加することになりました。お陰で地元の人達と友達にもなれたし、一緒に旅行も出来るようになりました。

リタイヤ後の身体づくりは、運動と食事と思い、サークルでの体操やシルバー向け運動教室へ参加し、また、食生活改善推進協議会の一員として、地域ボランティア活動に勤しんでおります。全世代へ食の大切さを訴えつつ、自らの食の見直し等に全力を注いで生活

する毎日です。

近頃は、L I

N Eという文明の利器を活用してグループを作り、コミュニケーションの場づくりに励んでいます。

私らしく、背伸びせず思いきり生きたいと思っています。皆様には、お祝いをいただき、ありがとうございました。



私らしく、思いきり生きていきたいです！

◆会友コーナーへの投稿について

◎他紙等への二重投稿はご遠慮願います。

◎「随想」への投稿については誌面の都合上左記内容にご協力をお願いいたします。

◎掲載・・・年1回

ただし、投稿数が多い場合は次号に持越しとさせていただきます。

◎字数・・・1200字以内厳守

紙面の都合上、調整させていただく場合もありますのでご了承願います。

◎次回締切り・・・令和7年10月20日厳守



―素晴らしいデザインの硬貨「五円玉」―

現在使用している穴の開いた「五円玉」は戦後、平和とこれからの日本の産業等の発展を願って1949(S24)年に発行されました。五円玉の絵をよ〜くご覧ください。

〈表側のデザイン〉

①稲穂（上部にたわわな稲穂のデザイン豊作を表す）…農業の振興

②水面（真ん中の下部分の横線が水面を表す）…水産業の振興

③歯車（真ん中の穴の周りのギザギザが歯車を表す）…工業の振興

〈裏側のデザイン〉

植物の芽と日本国の文字（五円玉裏面の中央両側に若葉）…林業の振興

穴の開いた硬貨は珍しいので、一昔前まで

は外国の方から硬貨の交換をお願いされたりしましたが、最近は電子マネーが台頭し現金を持ち歩かなくなったのでそんなこともなくなり、五円玉をちゃんと見る若者も少なくなりました。

（五ッ橋クラブ）

（きざげんマダムさんからの投稿）



―不思議で面白い日本語―

「ごめんなさい」の言葉は、

許すことを命令している？のかもしれない

数年前の新聞記事に出ていた辞書編集者、神永曉氏の面白い話を紹介します。

誰かに謝るとき「ごめん」とか「ごめんな

さい」と言います。「ごめん」は「ごめんなさい」

を短くした言葉です。

「ごめん」の「めん」の漢字は「免」で「ゆるす」という意味です。「免」に丁寧語の「ご」をつけた「ごめん」は許すことを丁寧という言葉です。

では、「ごめん」の後につく「なさい」はどうでしょう？

「なさい」は「なさい」など命令の意味です。「せよ」「しろ」を柔らかく表現しています。「家に帰きなさい」「勉強きなさい」と同じ「なさい」です。そう考えると、当初は「ゆるすことをしなさい」だったと思われます。

ただ、言葉は時代と共に変化するので、いつの間にか「ゆるしてください」の意味になった、という事かもしれません。

言葉って面白いですね。

（五ッ橋クラブ）

（和風レジェンドさんからの投稿）



特集

戦争当時の記憶

～戦後80年の節目を迎えて～

仙台空襲による消失地域(東一番町一帯)



戦後80年の節目を迎え、戦争を体験した方が少なくなる中で、戦禍の記憶を語り継ぐことが困難になってきています。

令和6年8月発行の会報95号では、先輩4名(故人)が「戦争当時の記憶」として「私のあしあと」に書かれた原稿を掲載しました。先輩方の思いに敬意を表するとともに、平和な今を生きていることに感謝することを忘れまいと思っております。

今回は、戦時中のさまざまな体験や各地を襲った空襲の実態など、親や祖父母、身内の方から聞いた話などを収集しました。実際に戦争体験をされた方、祖母から聞かされた話、平和を願う思い等、たくさんの方の投稿をいただき有難うございました。

仙台空襲による消失地域(仙台駅西北側一帯)



(写真提供: 仙台メディアテーク)

巨艦空母「信濃」に乗艦して

五ツ橋クラブ
蟻坂 四平(96歳)

昭和19年8月末、私は海軍通信隊から空母「信濃」の機装員として着任を命じられました。空母への配属に戸惑いながらも横須賀へ向かい、工場の入り口で「信濃」を尋ねると「110号艦」と呼ばれていることを知りました。宿舎へ案内され、翌日から作業服に着替えて機装作業を開始しました。巨大な信濃を目の当たりにし、その構造に驚きました。もともと戦艦「大和」「武蔵」に次ぐ三番艦として建造されましたが、ミッドウェー海戦で空母を喪失したため急遽航空母艦へ変更されました。下甲板以下は戦艦構造で、その上に飛行甲板を増設し、飛行甲板は鉄板の上に木屑や砂、セメントを混ぜたコンクリート状の強固な造りでした。艦の長さ270m、幅40m、基準排水量7万2000tと当時世界最大級の規模でした。工事が続くなか、10月5日に進水式を迎えましたが、大きな事故

が発生しました。ドック内に海水が誤って注入され、艀船が浮き、艦がドック壁に激突。その後後退し、岸壁にスクリューを打ちつけました。損傷は大きかったものの、すぐに修理が開始され、1カ月後に修理が完了。東京湾で試験航行を行い、公試運転に合格しました。そして海軍上層部の命令により、信濃は未完成部分を残したまま11月28日に横須賀港を出港し、広島・呉へ向かいました。

出撃に際し、通信科員は格納庫甲板に集合し、通信長から「第一艦隊（旗艦は戦艦大和）に合流しフィリピン方面へ向かう」旨の訓示を受けました。出港時には戦艦長門などの艦船から「帽振れ」の挨拶を受けました。夕方に出港した信濃は護衛の駆逐艦三隻とともに航海を続け、出撃の前祝いとして特別に汁粉が配られ、有難く頂きました。午後10時過ぎ、見張員から敵潜水艦発見の報告があり、艦内は緊張に包まれました。

午前3時過ぎ、突然のすさまじい衝撃で艦が雷撃を受け、仮眠していた私は長椅子から床に振り落

とされました。第2・第3・第4の衝撃が続き、私は急いで上甲板へ移動。防音室にはすでに20名ほどの兵士が集まっており、状況を見守りました。午前8時に勤務を終え、朝食の乾パンを受け取ると、「手すきの者は甲板に集合せよ」との命令が出されました。甲板に出るとすでに艦が傾き、右舷側の甲板の端が海水に浸かりそうな状態でした。寒さと恐怖に震えながら錨甲板へ向かうと、信濃は駆逐艦に曳航される準備をしていました。しかし、3000t級の駆逐艦で7万2000tの巨艦信濃の曳航はうまくいかず、ワイヤーが切れてしまいました。その時、艦長が「総員退避」を命令し、全員が海へ飛び込みました。

私はロープを伝い左舷を下り、信濃が傾いて船腹が見えてきたところで海へ飛び込みました。「遠くへ泳げ」との声が響くなか、沈みかけた信濃を振り返ると、艦は静かに横転し、艦底を上にして浮きました。その上には数十名の兵士がいましたが、艦は後方から海水を吹き上げつつ沈み始めました。

やがて艦は舳先を上にして沈み、私は信濃に敬礼を送りました。

冷たい風の海を泳ぎ続けるうちに流れてきた木材に掴まり、数名とともに救助を待ちました。駆逐艦が救助作業を開始し、私はロープに足を入れ引き上げられました。そのまま駆逐艦内で一昼夜爆睡し、目が覚めた時には呉の軍港に到着していました。軍港には戦艦大和や榛名をはじめとする多数の艦船が信濃の到着を待っていました。救助された乗組員は「三つ子島」に防諜隔離され、1カ月間滞在しました。信濃の沈没は相手側にとって有利な情報であり、味方の戦意を削ぐ恐れがあるため、沈没について口外を禁じられました。出撃から一日も経たずに沈んだ信濃。1000名近い将兵と共に海底深く眠っていることを考えると80年以上が経過した今も、私はその記憶を胸に、不戦の誓いとともに冥福を祈り続けています。



戦争当時の記憶

亡き母が女学生時代に、米軍機の機銃掃射を受けたという話を聞かされたことがありました。幸い怪我はなかったとのこと。

五ッ橋クラブ
石川 洋一(75歳)

小生、17年生まれですので、終

五ッ橋クラブ
大森 孝夫(82歳)

戦までの微かな記憶として、生まれ故郷の大河原から、遠く仙台の空が空襲で赤く染まった光景が今も目に焼きついております。以来、中学生の頃まで、夜間の飛行機の音には恐怖感がありました。

そして一方、長兄は応召し、激

戦地・沖縄にて戦死いたしました。その計報を受け、悲嘆に暮れる家族の姿を、幼い末っ子だった私は未だなお忘れることができません。改めて戦争の恐ろしさを今なお叫び続けなければならないと思っております。

鈴なりの仙石線



私の叔父さん(父の兄)は、シベリア抑留体験をしたそうです。本人の口から過酷な話を聞くことはなく、いつも穏やかな笑顔で人に接していました。言葉では表せないほどの深い辛さに、胸が痛みます。

五ッ橋クラブ
奥 京子(76歳)

仙台市役所(昭21.6)※米軍撮影



父母から戦時中の食糧難については聞かされていましたが、具体的な事は余り話しながら、ただ今ある食事を大切にいただくようにと言われていました。

五ッ橋クラブ
加藤 仁(68歳)

被災者



私は空襲当時、2歳でした。空襲で避難するとき、母は私をおんぶして逃げたそうです。そのたびに私はきまっておしっこをしたそうです。

五ッ橋クラブ
鎌田 善也(82歳)

(資料提供:いずれも
仙台市戦災復興記念館)

戦争が終わって僕は生まれた

五ッ橋クラブ

小坂美知恵(71歳)

父と叔父から聞いた話の一部です。父の弟2人は立教大学と早稲田大学在学中に学徒動員で特攻隊員のパイロットになった。1人は伊勢の飛行場で訓練を受けていたが、次第に物資が不足してきて飛行機に積み込む爆弾も無くなってくる。「こうなったら人間が爆弾の代わりだ!」と無謀な作戦に、若き隊員たちは人間爆弾として片道の燃料(片道も燃料がない飛行機もあった)で飛行機もろとも敵艦に突撃した(菊水と言っていたような...)。そんな話を聞いて子ども心に恐怖を感じたことを覚えている。この叔父は戦後、最高裁判所の判事になったが53歳の若さで亡くなったため多くの話は聞くことが出来なかった。もう一人の叔父は鹿児島(知覧)の特攻隊だった。友の出撃を見送るたびに『次は自分の番だ』と覚悟を決め実家の両親あてに手紙(遺書)を書いた。その後、別の基地に異動とな

り終戦を迎えた。復員した姿を見た母親は、玉砕したと思っていた息子を目の前にして腰を抜かさんばかりに驚き、「○○か?」と息子の名前を呼び「幽霊じゃないのか?足はあるのか?」と何度も何度も息子の足を両手でさすって泣いたという。この叔父は福島区検副検事になり今年4月に100歳で永眠した。一方、父は近衛兵になった。近衛兵の任期が終わると、満州国の皇帝「愛新覚羅溥儀」を警護する警察官となり大陸へ渡った。終戦になると引き上げの民間人を助けながら港へ向かった。長春から港に着くまでの何百キロをどれ程の期間歩み続けたのだろうか。無事に引き上げ船に民間人を乗せたあと、自分は復員が遅れても良い、と最後の船に乗り広島宇品港に上陸し、やっと日本の土を踏んだ。

昭和47年、田中角栄総理大臣の時に「日中国交正常化」になった。「お父さん、やっと中国へ行けるね。お世話になった人や懐かしい人達にも会えるね」と父へ話しかけたら、「俺は行かないよ」と言う。理由を聞くと、引き上げ船の中では腸チフスや結核、栄養失調等で命を落とした人が赤ん坊から老人まで大勢いた。やっとの思いでせつかく船に乗っても日本まで連れて帰ることが出来なかった無念さは忘れることが出来ない。その亡骸を船の上から海へ投下し埋葬する辛さ。東シナ海にはそういった方々の魂が多く眠っている。その魂の上を、たとえ飛行機でも自分の足の下には出来ない、と言った。くしくも戦後80年の今年、きつくて中々開かなかった実家の引き出しが開き父の引き上げ証明書が出てきて驚いた。

天壤無窮の名のもとに民間人の多くを犠牲にし、あまたの若い命を散らしてしまった太平洋戦争とは何だったのだろうか。高橋是清の言葉を借りれば『常識を無くした軍が政治に嘴を入れるのは国家の災いといえる。国益レベルの倫理を忘れてはいけない』戦後生まれの私の周りにも戦争未亡人や親のいない子が多かったし、身体の一部を失くした傷痍軍人が街角で物乞いしている姿があった。皆、戦争の犠牲者である。現在も世界のあちこちで戦争や紛争が勃発し、火種がいつ日本に飛び火するか分からない。昭和45年に杉田二郎が歌った『戦争を知らない子供たち』を聞いていた若者達は今老齢を生きている。戦後生まれが人口の9割を占める現在『戦争が終わって僕は生まれた』世代の私達は何をすべきなのか。戦後80年の間に戦争の形態が恐ろしく様変わりしているこの不透明な時代をどう生きるのか。人間は戦争を始める愚かさを持っているが、戦争を止める勇気も持っているはずである。世の中の出来事や政治に無関心にならず、先人たちから伝えられたことを次世代へ伝え続けたい。これからの時代を生きる若者たちが正常な判断ができるように...



戦争当時の記憶

五ッ橋クラブ
佐藤 英明(78歳)

私の生の源はあの戦争にあります。青森県出身の父は徴兵され、和歌山県出身の母は軍属として、それぞれ満洲(大陸)に渡りました。そこで運命の出会いがあり、終戦の年の秋(1945年11月)に結婚しました。戦後の混乱の中、1946年秋に日本に引き揚げ、翌1947年6月に私が生まれました。戦時中の様々な体験は父母から聞きましたが、ここに記す余裕はありません。いずれにしても、あの不幸な戦争があったから私の生がもたらされた、という複雑な気持ちを持って生きてきたことは事実です(多少、気障ですが...)。

五ッ橋クラブ
佐藤 紀也(78歳)

「五ッ橋クラブ50年の歩み」(平成24・2012年発行)に、故高山五郎氏による「我が不毛地帯(シベリヤ抑留記)」が掲載されています。本稿は、高山氏がご友人に託されたものであり、「ぜひ掲載して欲しい」との強いご要望があったものです。

他にも戦争体験記が寄稿されています。先輩のご苦労に思いを馳せ、改めて、ご一読をお勧めします。

五ッ橋クラブ
佐藤 益彦(86歳)

昭和19年当時、神奈川県茅ヶ崎に住んでいましたが、毎夜空襲があり、母とともに松林にある防空壕に逃げたのを覚えています。空は探照灯に照らされ、真昼の様な明るさでした。

五ッ橋クラブ
佐藤 健治(74歳)

近年のテレビ報道などで懐かしい写真等を見るたびに、当時の厳しい生活を思い起こします。今年は、戦後の学習会などの案内もあることから、ぜひ参画したいと考えています。

五ッ橋クラブ
柴谷 聡(66歳)

父は特攻隊員でした。

鹿児島で出撃の前日に終戦となり、隊は即時解散となったそうです。特攻隊の生活は過酷を極めたようですが、近隣の方々が豚の丸焼きやカツオなどを差し入れてくれたこともあったそうです。

叔父は学徒出陣し、関東軍憲兵のスパイとしてシベリア抑留となり、最後の帰国者として地元紙に載ったほど苦労したそうです。

五ッ橋クラブ
高橋 正幸(87歳)

終戦当時、私は国民学校2年生で、山形県鶴岡市にいました。夜に一度だけB29が一機、上空を通過するのを目にしたことはありましたが、それも3か月ほどの疎開を経験したぐらいです。父は電信技士でしたから出征することはありませんでしたが、同級生や近所の友人たちの中には、戦争で親を亡くした遺児が多くおりました。3年生の授業では教科書の墨塗りをさせられました。捧げ持たされていた教科書を真っ黒に汚すことが授業でした。私らにとっては、戦中よりも戦後の学校・先生たちの変わりようが「戦争」の体験と言えます。私らの世代は、その後が始まった朝鮮戦争、ベトナム戦争、そして反戦・安保闘争が「戦争体験」と言えます。

幼い頃の思い出 長岡空襲

五ツ橋クラブ

高橋 功一(84歳)

今年は終戦80年を迎えますが、私は48年前に東京から仙台に転勤してきて以来、東北管内・各地でお世話になってきた越後出身の間です。戦争にまつわる記憶の中で、私が最初に思い出すのは4才半の時の長岡空襲の夜のことです。生まれは新潟県の長岡市学校町ですが、戦争の終わりが見え始めた8月1日の夜、激しい空襲がありました。

この時期、母は家の前の雁木通りでバケツリレー訓練や近くの長岡高等工業学校の正門前広場での竹槍訓練に参加していて、軍役の人が壇上で母達の教練の指揮をしているのを私は見ていました。

幼稚園の午後、掛布を持って友達を追いかけていると、「一緒にお昼寝しよう」と無邪気に誘っていました。

空襲は、警戒警報から空襲警報に変わってすぐに、夜の10時半頃から始まったそうで、何時、家を離

れたのかは覚えていませんが、子供はすぐ逃げ出せるように、寝巻ではなく、いつも外着で寝かされていたのは覚えています。家の裏には小さな防空壕がありました。この日はそこには向かわず、父が私の手を引き、母が2才の弟を背負い、暗闇の中、町から山へ向かって伸びる田んぼ道を、急ぎ足で逃げたそうです。

特に記憶に残るのは、暗闇の田んぼの畦道に並んで腰を下ろし、頭上を飛び交う町への爆撃を見上げていた時のことです。空からは、何列にも連なったキラキラと輝く星のようなものが、斜めに、これでもかこれでもかと連続して落ちていく様子はとても不思議な光景でした。幼い私には何のことか分からなかったのだと思います。空襲は翌日の零時半頃まで続いたのですが、成長してから改めて、あれはB29爆撃機による大量の焼夷弾投下だったと知りました。

翌日、家のあったあたりに戻ると、家はすでに焼失し、一帯は焼け野原になっていました。焼け跡では、亡くなった人にトタン板を

かぶせて火葬するなど、凄惨な光景を見ることになりました。以上が空襲で覚えている一部です。

市街地の8割が焼野原になり、人口7万人ほどの町で1500人近くが犠牲となり、東京を除けば以北で最大の被害だったとか。後に成人してからネットで知り、その被害規模に驚きました。

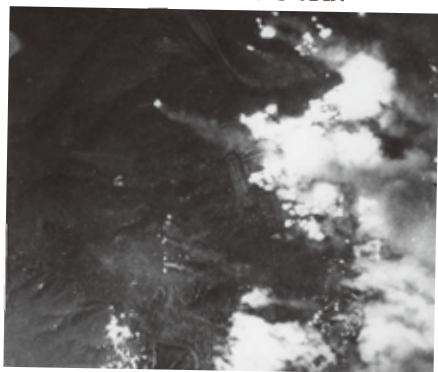
長岡は、この空襲にも関連する日米開戦の発端となる真珠湾攻撃を立案、指揮した山本五十六の生誕地です。私の母校・長岡高校の先輩になりますが、その生涯についてはあまり聞くことがありませんでした。ただ、利発で、鉄棒の大車輪が得意であったことや、「やつ

てみせ、言つて聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」と、その続きについてはリーダーに必要な名言と聞いた気がします。

卒業後に阿川弘之や半藤一利などの著書を読み、映画やTVでも彼の姿に触れ、父母の墓参の折に訪ねた山本五十六記念館では、昭和18年ブーゲンビルで撃墜された搭乗機の左翼部残骸や、私の好きなカードゲームをしていた痕跡を見つけた。三国同盟に徹底反対するなど、芯のある生き方をした郷土の偉人だと思っています。

最後に、毎年8月2・3日には、「長岡まつり大花火大会」が開かれます。

炎上する川内軍事施設



焼け落ちた二高校舎



(資料提供: いずれも仙台市戦災復興記念館)

戦争当時の記憶

五ッ橋クラブ
戸田 藤和(78歳)

海軍飛行兵だった父は生還したので戦後生まれの私の存在がある。父の兄(私の伯父)は陸軍召集兵で、終戦2ヶ月前の6月に比島ミランダナオ島で26才で戦死した。父は戦後兄の戦死を悼み、当時戦争だけのために産めよ増やせよの時代に育てられた人生の悲哀を私に話してくれた。

お前の名前は未婚で戦死した兄の名前の「藤一」を貰い、二度と戦争を起こしてはならない平和への願いを込め、新しい昭和の時代の「和」をとって「藤和」と命名したんだ。

激戦地玉砕の硫黄島から帰還した父から貰った命。既に父の享年を過ぎ、40億年前まで遡る我が生命も限りある余生だが、その日が来るまで精一杯生きていきたいものだ。

五ッ橋クラブ
乳井 昭道(80歳)

終戦時は1歳でしたので、戦争体験談は出来ません。戦後教育で平和が当たり前となっていますが、小学校の校歌の歌詞の中に「平和日本の力をむねに」というのがありました。戦後に作られたのです。成人してから、終戦直後に母が長姉に宛てた手紙を見る機会があり、母が敗戦に対する悔しさを表現していました。これにはショックを受けた記憶がありますが、幼少時には母がその様に思っていたとは思いませんでした。母が存命だと114歳です。

五ッ橋クラブ
山田 孝雄(71歳)

小生の母は東京から疎開して仙台に居ましたが、「仙台空襲では西の方が真っ赤になり、そして上空にはB29が遠くに見え、徴兵されなかった若い方が狂ったように

叫びながら走って逃げてきたので、とても怖かった。」と話していました。

宮古地区電友会
伊藤 幸男(88歳)

1945年8月10日、宮古空襲が発生し、筆者は母親と隣家の幼児とともに避難した。当時、宮古国民学校の3年生で向町に住んでいたが、空襲による炎の中、必死で逃げた記憶が鮮明に残っている。

さらにその少し前、7月14日には宮古市で最初の空襲があった。梅雨空の下、西の空に2機の飛行機が現れ、宮古上空で偵察を行った後、藤原地区に爆弾を投下。この時、筆者は敵機が急降下してくるのを目撃し、驚愕して家へ飛び込んだ。その衝撃的な体験の中で、特に印象に残ったのが、野菜売りの女性が叫んだ「マンゼエイロク」という呪文だった。戦後、この言葉が雷除けのおまじないであったことが判明し、当時の宮古の伝統文化に触れる機会ともなった。

戦後、筆者はこの宮古空襲の記

憶について他の人に話したが、7月14日の空襲については誰も覚えていなかった。一時は夢想か記憶違いかと疑ったが、強烈な体験を解明したくなり、NTT退職後に本格的な調査を開始。調査の結果、宮古には8月9日、10日に加えて7月14日にも空襲があったことが判明し、この研究をまとめた『宮古空襲 その全貌』を発刊した。

この調査により、宮古精錬所の「ラサの煙突(160m)」が奇跡的に攻撃を免れ、現在も宮古の象徴として残っていることも確認された。筆者にとって、この一連の



宮古空襲(ラサ工業)のイラスト画【著書から抜粋】

戦争体験は決して忘れることのできない記憶であり、後世に伝えるべき重要な歴史の一部である。

終戦間際の宮古での経験は、多くの人が語ることもない歴史の一片であり、戦争の恐ろしさと人々の生活への影響を物語っている。この記録は、宮古にとって重要な歴史的資産であり、今後とも忘れられることなく受け継がれていくべきものだ。



伊藤幸男氏・著書『宮古空襲 その全貌』

戦後80年、

終戦時の悲しい思い出、M君



秋田支部
小坂 公一(93歳)

太平洋戦争が終わって80年。地元紙、秋田魁新報には、『戦後

80年・戦争が見えない』を特集で載せている。終戦の時、わたしは13歳、旧制中学2年生であった。ただ、この8月は、「残酷」の二字ともいえる。

今、私は93歳。目も衰えたが、思い出を綴ってみたい。

街には「鬼米英を倒せ!」「進め一億、火の玉だ!」の大きな垂れ幕に軍艦マーチが鳴り響いていた。8月2日は、特に忘れられない。午前中は乙種予科練の試験日、試験場には13歳〜16歳位の300人程が集まっていた。白衣を羽織った試験官の指示で動くが、咳一つできない緊張感だ。素っ裸で、ギューと握られたりして…。口頭試験は少なく身体検査が主だった。昼過ぎ持参の弁当を食べてから合格発表となった。「15歳以上の合格者は、即日入隊」「14歳以下は、10月入隊」で、私は、合格した。「さあ、敵艦へ体当たりするぞ」の思いで、2時頃家路に。公園前の坂を下り町に入ったら、町がざわついて多くの人だかり「?」「?」、近寄って行ったら「Mちゃんが海で溺れたぞ」「何だって!」直

ぐ海へ向って走った。汗が噴き出したが構わずに走った。漁船のある下浜を過ぎ砂地も走り海の手前には砂防林が有り、その先浜を見てもまだ姿が見えない。砂浜には、ハマナスも多く、ふらつく固い棘が痛い!「あっ!!」消防団の人が見え大柄の方の背中に、両腕がだらり、頭を垂れたM君が：声も出なかった。まわりには子供や大人もいたらしいが、思い出せない。唯々M君の背中を見つめながら歩いた。M君の白い体、回りは、真っ黄色の月見草。夕方咲く花なのにこの時は、午後3時半? ?? 呆然のまま町へ向ったあの光景は昨日のように今でも残っている。

M君は、背が低く僅か数cmで予科練を受験できなかった。

M君との出会いは、旧制中学校の入学式を終えて帰る途中にM君から声を掛けられ「秋田から引越して来た人?俺はMです。よろしく!」M君は色白で丸顔、元気で明るく、はきはきしていて、良く気が付くM君でした。

徐々に中学校の授業が減り、動

員が多くなった。東雲飛行場(東京都江東区有明)、河口の松下造船工場は、松下幸之助が軍から頼まれて、木造輸送船(250t)を製造。物量が乏しくなって窮余の一策だったらしい。その後は、専ら松根掘り、鋏だけ持って学校へ、あちらこちらの山へ行った。

8月14日深夜10時過ぎ、叩き起こされた。秋田市土崎にあった日石製油所への大空襲だった。裏の畑から公園に行った。間断なく続く轟音、どす黒いようなというか、南の空は昼のようだった。夏なのに寒く震えていた。空襲は、8月15日の朝方3時頃まであった。

8月15日、学校から「授業はなし、学校集合」で学校へ行き、体操場でラジオを聴く、ガーガー、ピーピー。(玉音放送)泣いている教師もいた。

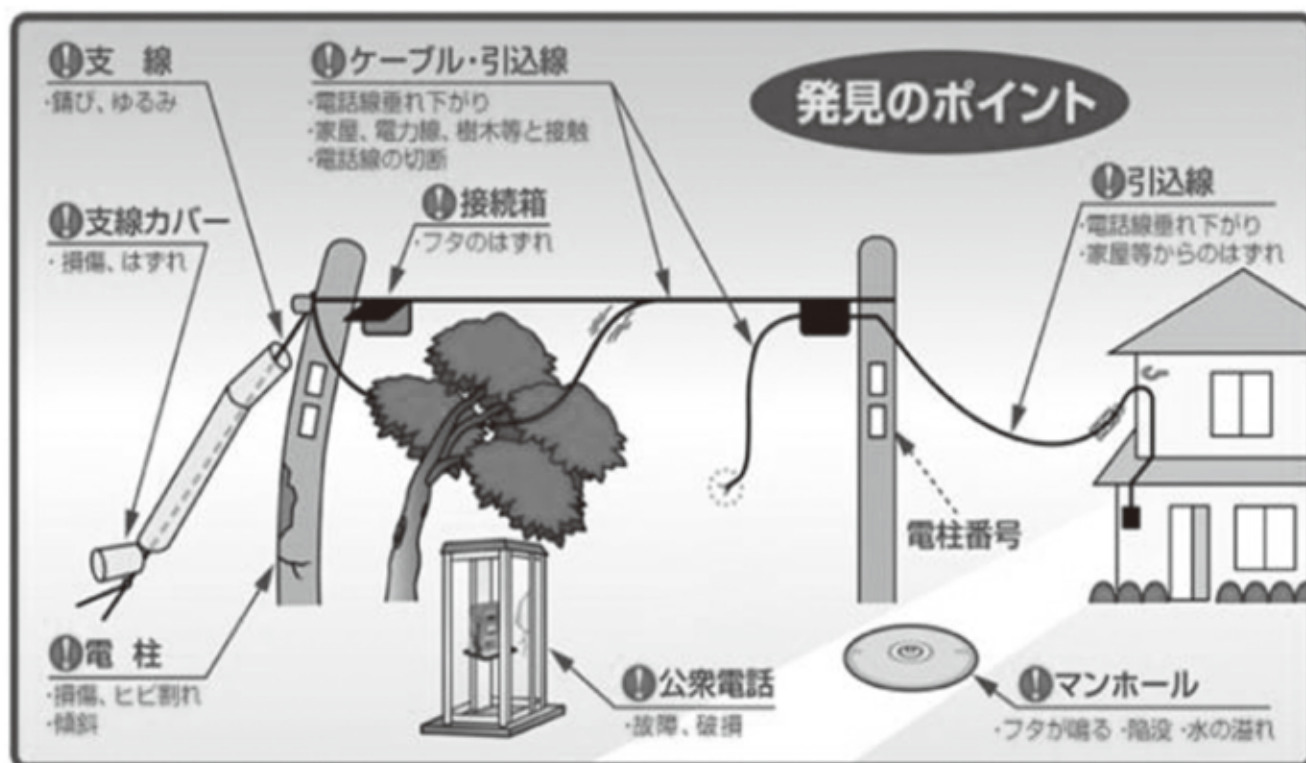
戦争が、かけがえない友の命を奪ったという思いは、今も私の中で消えることはない。



不安全設備の情報提供にご協力ください

こんな設備を発見したら・・・

- ・ 電話線が垂れ下がっている（切れている）
- ・ 電柱が傾いている
- ・ 公衆電話BOXが破損している
- ・ マンホールのフタが鳴る 等



Web113への情報提供をお願いします！！

Web113下記のURLにアクセス

または「電話線が垂れ下がっている」で検索

https://web113.ntt-east.co.jp/safety_report/

電話線が垂れ下がっている

検索

スマホのカメラでQRコードを読み込むと
トップページが表示されます



NTT東日本からのお知らせ

■長寿お祝いについて（勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本社長からのメッセージを添えた「カタログギフト電報」を贈呈させていただきます。

長寿の種類	贈呈品
喜寿（77歳）	カタログギフト電報 （1万3千円相当）
米寿（88歳）	
白寿（99歳）	

（注：年齢は満年齢でNTT東日本が把握し贈呈しております）

「長寿お祝い」に関するお問合せは・・・

NTT東日本-北海道 企画総務部 社員サービス担当
TEL：011-212-4011

■弔慰金について（勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本から以下のとおり弔慰金を贈呈（口座振込）しています。

本人・・・30,000円

配偶者・・・10,000円

「弔慰金」に関するお問合せは・・・メールでの問合せをお願いいたします。

NTT東日本-東北 企画総務部 社員サービス担当

メール：obrenraku-gm@east.ntt.co.jp

TEL：022-281-8716

★長寿祝い・弔慰金贈呈に関して・・・★

【注1】最終退職会社（転籍等）によっては贈呈の対象外となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

【注2】贈呈期限については、長寿祝いは該当年齢の誕生日から
弔慰金は死亡の事実が判明した日から、それぞれ2年以内となります。

災害時の安否情報が、やり取りできるサービス

171

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、大規模な災害が発生した場合に提供を開始します。

災害時は、全国から被災地への電話がつながりにくくなります。
「災害用伝言ダイヤル 171」は、被災住民の皆様の安否を伝える
声の伝言板です。もしものために、ぜひ覚えておいてください。

毎月1日等、「災害用伝言ダイヤル」を体験できます。

伝言の録音方法

171 をダイヤルする

↓ ガイダンスが流れます

録音の場合 **1** 暗証番号を利用
する録音は **3**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または
携帯電話・PHS・IP電話の番号をダイヤルする。

0

0

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要

↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音をする(30秒以内)

伝言の再生方法

171 をダイヤルする

↓ ガイダンスが流れます

再生の場合 **2** 暗証番号を利用
する再生は **4**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または
携帯電話・PHS・IP電話の番号をダイヤルする。

0

0

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要

↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音内容を確認する

【ご利用料金】 NTT東日本・NTT西日本の電話サービスから伝言の録音・再生をする場合の通話料は無料です。他通信事業者の固定電話、携帯電話
やPHSから発信する場合、通話料については各通信事業者にお問い合わせください。なお伝言録音等に伴うサービス利用料は無料です。

インターネットを利用した災害用伝言板(他の災害用伝言サービスと連携可能)

web171
災害用伝言板

<https://www.web171.jp>

または、web171と検索



【「災害用伝言ダイヤル(171)」と「災害用伝言板(web171)」で相互連携が可能となりました。】

【ご利用料金】 災害用伝言板のサービス利用料は無料ですが、インターネット接続費用やプロバイダ利用料
および、ダイヤルアップ接続の場合は通信料等が別途必要となります。

【体験利用期間】 「毎月1日及び15日」・「正月三が日」・「防災週間(8月30日～9月5日)」・「防災とボランティア週間(1月15日～21日)」に
「災害用伝言ダイヤル」を体験できます。(体験利用時のご利用料金は同様です。)

お問い合わせは、局番なしの「116番」へ

(携帯電話・PHS・弊社以外の固定電話からのお問い合わせは「0120-116-000」へ)

◎表紙写真の紹介

シリーズ おらほの自慢

くふるさとの隠れた魅力を再発見く

今回は福島県の隠れた自慢です。

最初に厳冬の時期にのみ現れる『氷の神殿』を紹介します。福島と米沢を結ぶ旧国道13号は現在廃道となっており、明治天皇の命名により、万世大路と名付けられた歴史ある道路で、冬になるとトンネルの隙間から流れ出た地下水が氷柱となり、「氷の神殿」と呼ばれる幻想的な光景を生み出します。朽ち果てた人々に特別な感動を与えます。(写真中央)「写真提供／いいざかサポーターズクラブ」

福島にも隠れた桜の名所があります。福島駅から車で約20分、南西の方角にある「高倉山」は、知る人ぞ知る穴場スポットです。晴れた日には、福島市西部に広がる吾妻山の雪うさぎと、桜やハナモモの美しい共演を楽しめます。桜が彩る広々とした敷地では、ペットと一緒にのんびりと春の訪れを楽しむこともできます。(写真中央下)「写真提供／福島市観光コンベンション協会」

子どもの頃に習った文部省唱歌「牧場の朝」『ただ一面に立ちこめた牧場の朝の霧の海』：鐘が鳴る鳴るかんかんと』の歌を覚えてい

る方も多いのではないのでしょうか。福島県の鏡石町にある岩瀬牧場をモデルにしたとされるこの歌は、牧場の朝の清々しい風景や、鐘の音、羊の群れの様子を描いています。1880年、日本発の西欧式牧場として農場が開かれました。現在ではオートキャンプ場も整備され、休日には多くの人が訪れ、バーベキューや牧場体験を楽しみながら、心に残る思い出を作ることができます。(写真左上)「写真提供／岩瀬牧場」

会津さざえ堂は、1796年に福島県会津若松市の飯盛山に建立された高さ16・5メートル、六角三層の仏堂です。正式名称は「円通三匝堂」。世界で唯一の二重らせん構造を持った木造建築で、江戸時代までは参拝者は西国三十三観音を巡ることができました。外観はさざえ貝のようで、建物の中は上りと下りが一方通行で、すれ違うことがない不思議な通路という珍しい建築構造。平成7年に国重要文化財に指定されました。不思議体験を是非どうぞ。(写真右下)「写真提供／会津さざえ堂」

次に紹介するのは二本松市にある天狗塚公園です。雑木林の道を抜けると、突然視界が開け、安達太良の峰々が目前に広がります。古代の円墳を思わせる丘には六角形の展望楼

が建ち、天狗塚とその背後に広がる安達太良山の絶景がインスタ映えすると話題になり、外国人旅行者の訪問も増えています。天狗塚には、力自慢の天狗が安達太良山から岩を投げたと伝えられる伝説が残っています。(写真左上)「写真提供／岩代観光協会」

涼ヶ岡八幡神社は、福島県相馬市にある歴史ある神社です。境内には、国の重要文化財に指定された拝殿・幣殿・本殿があり、また、「縁結びの櫃」と呼ばれる珍しい木があり、夫婦円満や「仲直りの木」として親しまれています。是非、ご夫婦で訪れてみてはいかがでしょうか。(写真中央下)

東北自動車道安達太良SA(上下線)に「ウルトラベン・ウルトラマンティガ」の自動販売機が設置されております。ウルトラマンを制作していた円谷プロダクションの創設者「円谷英二」さんが須賀川出身ということもあり、自動販売機の脇に設置されています。写真は下り線のSAにある「ウルトラマンティガ」です。自動販売機で飲み物を購入すると、「ウルトラマンティガ」の音が聞けたり、胸にあるカラータイマーが点滅するなど、ご家族で楽しめる驚きの仕掛けが組み込まれています。(写真左下)

(写真提供／電友会福島支部)

